平成２９年度　石狩市風力発電ゾーニング手法検討委員会　作業部会

部会名	事業性の検討に関する作業部会（第２回）	日付	2018（H30）年 2 月 19 日

洋上風力

回遊魚への影響
不安

海流の変化
不安

沿岸について漁業やプレジャーボートなどの利用状況を踏まえて、一定距離について規制するとよい。例えば岸から３km。

構造物
メリット、デメリット

洋上の工事によって魚に影響があることがヨーロッパで報告されている。

構造物が発生することは、海生生物、海洋環境等の変化に対する不安が多い。よって、漁業活動（生活権）が見通せない。

場所によっては影響が大きいと思う。
厚田風車の下では群来がない。

ヨーロッパは遠浅で、20 km以上沖合にある。

洋上風力の認知度がまだ低いが、どのように知ってもらうのか？
アンケートでは、8 割の方が洋上風力発電のことを知らない。

5,000kw、6,000kw と大型の風力発電が建つと石狩湾全体に不安。

↑
日本では適地ゼロ、洋上はできない？

漁業者の生活がかかっている。

北向きの航路について船舶の航行データに基づき保全する海域を示すべきである。

漁業ができなくなってしまう。

漁師さんの意見を聞くことが大切。

漁業協調
海洋産業研究会の方と意見交換をしてみたい。

今日は漁業者がいない。

現場の海の情報を集めることが必要。

アメリカのロードアイランド州では、住民参加による検討をすすめ、洋上風力発電を導入した。その検討過程は報告書としてすべて公開されている。

地区別にいろいろな漁業がある。多様な魚種がいる。漁獲の多い少ないで判断できない。

陸上風力

送電網、建設、土地の購入や借用に関するコスト

企業や事業者が判断する以外の事業性

地価もゾーニングに必要では
建設コストは？

↑
個々の事業者で判断すべき。

陸上について、点在している小規模なエリアは除外した方がよい。
面積で考えて、例えば 2,000kw×5 基未満の区域は除外する等のスクリーニングをすべき。2,000kw×5 基＝10,000kw　環境影響評価の基準

洋上・陸上　共通

情報が無い。

認知度が低い。
特に洋上

ヨーロッパでは 3,000kw の風力発電が陸上に建設されていない。洋上も陸上から 20～40 kmの場所でないと建設してはいけない。

不安要素が多い。

認知度が低いのでメリット、デメリットがよくわからずに建設後に問題になる。

↑
メリット、デメリットがよくわからない。

石狩市の漁業が続くためにも陸上、洋上の風力発電はいりません。低周波の被害は厚田小谷の風力発電によるニシンの群来がその部分に来ないと聞いている。漁師さんの皆さんが心配している。

市民へのアンケート
回収率 25%
少し低い

アンケートでは 259 人中 175 人が騒音、振動、低周波に不安、144 人が耐久性、転倒に不安と答えている。

具合が悪くなる

500mの離隔距離はいかがなものか。

市民にもっと説明することが必要。

健康被害
低周波

多くの人に知ってもらうことが欠かせない。
→　合意形成

海外では反対運動が。

風車無理（保全）と可能（条件付き）エリアに段階的な考えがあってもよい。

そ　の　他

３回の作業部会でどこまで議論できる？

大きな話し合いをしたほうがいい。

各部会の検討範囲は？

作業部会では、検討するのは良い悪いの相対論ではないのでは？

健康被害によって健康保険の費用が増大することを懸念する。

事業性部会と他の部会との関連性はどこまで？（バランス）

健康保険の赤字についてとても心配。低周波の被害が手稲、北区まで及ぶというデータがあり、ヨーロッパではそのために海に出て行った。

欠席者もいるが、部会の意思統一ができるのか？

漁業振興基金について知りたい。

風力の良い悪いは、火力、原子力など含めて、エネルギー全体のこととして科学的な議論が必要。